

地域密着型サービス評価の自己評価票

グループホーム銀杏

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	パーソンセンタードケアを目標に独自の理念を作りあげている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有し、日々の生活や活動の中で取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族には理念や理念に基づいた活動内容を銀杏だよりにて報告している。地域の方には内覧会や地域の団体の見学の受け入れ等で伝えている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の途中に立ち寄り見学に来たり、園芸療法で庭に出ている際に声をかけてくれたりしている。平成21年8月23日第1回地域交流会を開催しました。近隣の方、地域のボランティアをお呼びして流しソーメン、かき氷、すいか割りを行いました。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のボランティアの受け入れを積極的に行っている。又地域のイベントに積極的に参加している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	同一法人の居宅介護支援事業所が地域の相談窓口になっている。	○	認知症ケアについて専門の相談が出来る窓口を設置して行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価は自己を振り返る機会として認識している。全職員が自己評価に関わり、話し合いの場を持ちさるるサービス向上に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成20年度12月より発足。2ヶ月分ごとの報告の場としている。会議で出た意見は職員会議で報告しサービスの向上に役立っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	電話や窓口に出向き相談している。	○	サービスの質の向上の為に連携して取り組んで行きたいと考えている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	伊勢崎市地域包括支援センターよりパンフレットをいただき全職員に配布し職員の資質の向上に役立っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	受容的態度でのケアを徹底している。時には強い口調の言葉づかいでも虐待になる事がある事も説明し虐待防止に努めている。	○	家族や外部からの訪問者に対しても失礼がないような態度の職員教育を行って行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>契約時には十分時間をかけ説明を行っています。グループホームに入居してからの取り組み等も説明しています。</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>入居者より意見・不満・苦情の声が届いた場合はその都度傾聴し、改善できるよう努めている。</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> <p>毎月始めに家族報告書と預り金台帳を家族渡している。職員移動についてはホーム内掲示板にて掲示し知らせている。</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>施設玄関にご意見箱を設置している。又契約時に重要事項説明書により、説明をしている。意見等があった場合は、改善し、施設玄関に掲示及び運営推進会議にて報告している。</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>朝の申し送りや職員会議等で意見を聞くようにしている。又日頃のコミュニケーションにより意見を聞くようにしている。</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>管理者も通常のシフト(夜勤を含む)に入っている為、柔軟な対応が出来ない事がある。</p>	○	事前にわかっている事等は併設施設の職員にお願いするようにしている。
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>職員異動がある場合は、去る職員の情報は入居者には知らせず、入る職員の情報は歓迎で入居者に報告している。悲しみより喜びを重視している。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<input type="checkbox"/> 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来る限り、外部研修に順番で参加するようにしている。研修後は研修報告書を提出してもらい職員が閲覧できるようにしている。	<input type="checkbox"/> 定期的な内部研修会の開催が出来ておらず、不定期になっている。月一回開催できるよう努めていきたい。
20	<input type="checkbox"/> 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修会に参加させていただいている。	<input type="checkbox"/> 平成21年度より地域密着型連絡協議会の会員となりました。積極的に、会議や研修会に参加して交流の機会を持ち、情報交換をし、サービスの質を向上していきたい。
21	<input type="checkbox"/> 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	OJTチェック表を使用し職員のストレスを把握している。又随時ストレスが軽減できるようコミュニケーションを図っている。	
22	<input type="checkbox"/> 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	とても好感の持てる処遇をしている場合は、その場で褒めるようにしている。	<input type="checkbox"/> 年1回年度末に表彰状をだしたいと考えている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<input type="checkbox"/> 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の前に、本人の悩みや不安を良く傾聴し、理解している。	
24	<input type="checkbox"/> 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の前に、家族の悩みや不安を良く傾聴し、理解している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の状況に応じて、適したサービスの紹介を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族に必ず見学をしていただき、出来る限り納得した上で入居していただいている。必要に応じて、体験利用も行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	おやつ企画を通して調理の知恵袋を教えていただいています。又園芸療法や回想療法から昔の事を学んだりしています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	往診に出来るだけ頼らず、外来受診をしている。馴染みの医療機関に家族と出かける体制にしている。その際受診時連絡表を家族に渡している。家族に会える機会多くし、入居者の方々も喜んでいいる。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	年に一度敬老家族会を開催し一緒に調理をしたり、アクティビティ活動に参加していただいている。一緒に行う事で、本人と家族はもちろんの事、家族間の交流も深まっている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望や必要に応じて電話をかけたり、本人手作りの紙すきハガキを出したりしている。面会・外出・外泊届けを出していただければ自由に会う事ができます。馴染みの美容室に行く方もいます。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日の食事やおやつ時間はリビングルームに集まっている。楽しい時間が過ごせるよう職員が工夫している。各療法・アクティビティ活動を充実させている。活動を通してお互いを理解し、関係を築きあげている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後の様子を確認し、必要に応じて情報交換を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で思いや希望の把握に努めている。訴えの乏しい方へは意向を引き出すよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報収集している。入居後も本人・家族等から情報収集している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の状態や行動を介護記録に記載している。職員全員が把握できるよう申し送り簿も活用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者、家族の要望を確認し、職員と話し合い作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化が生じた場合は見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・夜勤日誌・介護記録に記載している。日々の生活情報を申し送りしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族に受診をお願いしているケースがあるが、家族の都合によっては職員対応もできている。また日々の生活の中で買物や外出などの支援もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の区長、民生委員、老人会会長には運営推進会議に参加していただいている。ボランティアは傾聴ボランティア、アコーディオン演奏など毎月お願いしている。家族敬老会には、地域のボランティアに参加していただいている。消防は防災訓練実施で協力いただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて法人内の居宅介護支援事業所と相談しながら検討している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センター職員に参加していただいている。権利擁護事業等のパンフレット等もいただき職員教育に役立てている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の馴染みのある医療機関やかかりつけ医を利用している。受診時には受診時連絡表を医師渡し前回受診時からの様子を報告している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者9名中6名は元々認知症専門医がかかりつけ医である。的確なアドバイスをいただいている。	○	3名の方は認知症専門医ではないが、馴染みのかかりつけ医に的確なアドバイスをいただいている。状態観察しながら、認知症専門医に変更するか検討していきたい。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設法人の看護職員と連携している。必要に応じてかかりつけ医と連携している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先の病院へ情報提供を行っている。また馴染みの職員による面会も行っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族には重要事項説明書にて終末期ケアについて説明をしている。	○	まだそのような場面はないが、本人や家族の終末期における意向をあらかじめ聴取し検討していきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族には重要事項説明書にて終末期ケアについて説明をしている。	○	まだそのような場面はないが、グループホームで出来る事と出来ない事を明確にしながら対応していきたい。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の施設へ移動する場合は、移動先施設に情報提供を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約時や日々の生活の記録等で得た個人情報については外部に漏れないよう職員教育を行っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の生活の中で自分で選択できる場面を作っている。(外出先や外食先・食べたいメニュー等)	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設側が決めた1日の基本的な生活リズムがあるが、食事や入浴時間など一人ひとりのペースを大切にしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎朝モーニングケアとして男性は髭剃り、女性は化粧水と乳液とヘアクリームで身だしなみを行っている。服装も本人に選択していただいている。自己決定できない方には職員が選択しやすいように支援している。普段着からパジャマ、パジャマから普段着更衣を徹底している。爪切りと耳かきは隔週で行っている。理美容は、訪問理美容サービスを利用しているが、馴染みの美容室を希望される方は家族と相談しながら出かけている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、配膳、下膳、テーブル拭き、おしぼり配り、食器洗い等を利用者と職員が一緒に行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつや飲み物は職員と買物に行き、好きな物を自由に選んでもらっている。	○ まだそのような場面はないが、本人より希望があり、病状による制限がない限りは、お酒もたばこも楽しめるよう支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックにより排泄のタイミングを把握できるように努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本は週2回になっているが、本人より希望があれば毎日でも入浴できるようになっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとり明かりや室温の調整を行っている。足浴を行う事もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来る事と出来ない事を把握して、出来る事がいつまでも出来るように日常生活リハビリに活かしている。本人が得意とするものは生き生きとした表情で行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員はお金の自己管理の大切さは理解しているが、完全にグループホームで管理している。ショッピングの時はレジと一緒に並び支払いの支援をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、日光浴、ショッピングなど外出の支援を行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	野外療法と名付け、四季折々の草花を見にドライブに出かけている。又外出、外泊も家族の付添いがあれば可能である。お盆や正月には自宅に帰宅している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者本人から希望があった場合は電話や手紙の支援を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は特に定めておらず、いつでも面会ができます。ただし状況を見て制限した方がよい場合は制限させていただいている。お客様が来た時には、笑顔を忘れず挨拶とお茶出しと玄関までの見送りを失礼のないように行っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。もしそのようなケースが出た場合は拘束しないケアを実践していきたい。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊多動の方がいる為常時鍵を開けておく事は不安がある為、玄関横の事務室に職員がいる時に開けるようにしている。	○	玄関センサーの設置を検討していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員が日中はフロアで見守り、夜間は1時間おきの巡視を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁・ハサミ・医薬品は入居者の目に触れない所に保管している。それ以外は必要に応じて入居者管理にしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告書や事故報告書を作成している。その都度安全対策を検討している。報告の内容は、運営推進会議で報告している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応に備えてフローチャートを掲示している。医療情報もすぐに取り出せるようにしている。	○	緊急時対応マニュアルを作成していきたい。又職員に救命救急講習を受講させていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練を実施している。非常災害協力会により地域の方々の協力を得ている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	認知症の進行により、グループホームでの生活に対するリスクについて症状変化時に家族に説明している。ヒヤリハットの記録もしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行っている。異変時は看護職員に報告し、指示を仰いでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬はすべて薬剤情報を基に確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	天気の良い日は散歩に出かけている。10時と15時に水分補給をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食前に口腔体操を行っている。歯磨きの声かけや入歯の洗浄は夕食後に必ず行っている。口腔内のトラブルが生じた場合は、協力歯科医院に受診している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは管理栄養士が管理している。1日の水分補給量のトータルを毎日記録している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出から戻った際は必ず、手洗いとうがいを徹底している。季節風・新型インフルエンザ予防接種を全員受けている。	○	感染症予防対策マニュアルを今後作成していきたい。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は毎食後食器洗い洗浄機にかけている。ふきんや台ふきんは毎食ごとに洗濯している。常にきれいな物を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	下駄箱にカラフルな名札をつけている。安心して靴の着脱が出来るように椅子を設置している。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただけるように行事やアクティビティ活動を充実させている。毎月の入浴企画でも季節感を感じていただけるよう演出している。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームにテーブルコーナー、ソファコーナー、畳コーナーがあり、自由に使用している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になるべく自宅で使用していた馴染みの深い物品を持ってきてもらっています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	必要に応じて換気はこまめに行っている。部屋の温度は一人ひとり個人差に合わせて温度計を確認しながら調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの電気と洗面所の水道はセンサーになっている。忘れても自動的に点いたり消えたりする。廊下、リビング、トイレ、洗面所、浴室すべてに手すりが設置してある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	出来る事と出来ない事を把握して、出来る事がいつまでも出来るように日常生活リハビリに活かしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地の空きスペースに畑を作りじゃがいも、ミニトマト、すいか、メロン、かぼちゃ、大根、長ねぎ等を季節に応じて育てている。又プランターを使用して、花の種を蒔いたり活動している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

その人らしく生き生きと、今ある精一杯の力を発揮出来るよう、その人を中心とした介護（パーソンセンタードケア）を目標に日々取り組んでいる。日常生活リハビリでは、今その人の出来る事に着目して①食事場面では（盛り付け・調理後の後始末・配膳・下膳・食器の後始末等）②外出場面では（通院・買物等）③洗濯場面では（干す・取り込み・たたむ・収納・衣類の補修等）④掃除場面では（居室・台所・トイレ・浴室・洗面所・寝具回り・ゴミ回収・ゴミ捨て等）⑤布団管理では（布団干し・布団取り込み・リネン交換等）⑥その他では（カーテンの開け閉め・水やり・草むしり等）を職員と一緒にしている。又各療法（音楽療法・作業療法・回想法・園芸療法・学習療法・遊びりテーション・ストレッチ・筋力トレーニング・口腔リハビリ）も充実しており利用者様も楽しく活動されています。